

### 3. チュートリアルの実行

- ☆ GSSMaker の使用方法を理解しやすいよう、「確認用シナリオ」のシートにチュートリアルを用意しています。
- ☆ チュートリアルの手順は以下の通りです。この手順に沿えば、GSSMaker の機能を一通り体験できるようになっています。

順序	実行内容	備考
1)	物質名「トルエン」を選択	デフォルトでトルエンが選択されていますので、変更していなければ再選択する必要はありません。
2)	物理化学的性状、有害性評価値（有害性参照値）を設定。	「環境経由ヒト（トータル日摂取量）」を指定したい場合には、ユーザー指定欄に値を直接入力してください。
<b>【Tier I 簡易モードを使って計算する】</b>		
3)	Tier I 簡易モードを選択	デフォルトで簡易モードが選択されていますので、変更していなければ再選択する必要はありません。
4)	シナリオの設定	デフォルトでシナリオが設定されていますので、変更していなければ再設定する必要はありません。
5)	「TRA 実行」ボタンを押下	計算完了まで 30 秒程度要します。
6)	結果の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業者のシナリオ No.1～No.4 は RCR &lt; 1 → リスク懸念なし</li> <li>・ 消費者シナリオ No.1 は RCR ≥ 1 → リスク懸念あり（要修正）</li> <li>・ 環境シナリオ No.1～No.2 は RCR ≥ 1 → 要修正 No.3 は RCR &lt; 1 → リスク懸念なし</li> </ul>
7)	GSS 作成に進めないことが判明	RCR ≥ 1 のシナリオが 1 つでもあると、GSS 作成には進めない仕様となっています。
<b>【Tier I 通常モードを使って計算する】</b> (環境放出カテゴリ ERC の代わりに、CEFIC が提供している特定環境放出カテゴリ SPERC を使って RCR > 1 のシナリオを見直す。)		
8)	Tier I 通常モードを選択	Tier I 通常モードにチェックが入ったことを確認してください。
9)	消費者シナリオ No.1 に混合率を設定、環境シナリオを SPERC に設定。	「確認用シナリオ」で赤丸を付けた箇所を変更してください。
10)	「TRA 実行」ボタンを押下	計算完了まで 30 秒程度要します。
11)	結果の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消費者シナリオ No.1 は RCR &lt; 1 → リスク懸念なし</li> <li>・ 環境シナリオ No.1 は RCR ≥ 1 → リスク懸念あり（要修正） No.2 は RCR &lt; 1 → リスク懸念なし</li> </ul>
12)	GSS 作成に進めないことが判明	—
<b>【Tier II モードを使って計算する】</b> (ERC や SPERC で設定されている排出係数を使わずに、PRTR 排出量等の実際の排出量を使って、RCR > 1 のシナリオを見直す。)		
13)	Tier II モードを選択	Tier II モードにチェックが入ったことを確認してください。
14)	環境シナリオ No.1 に排出量を設定	「確認用シナリオ」で赤丸を付けた箇所を変更してください。
15)	「TRA 実行」ボタンを押下	計算完了まで 2 分～3 分程度要します。
16)	結果の確認	環境シナリオ No.1 は RCR < 1 → リスク懸念なし
17)	「GSS 作成」ボタンを押下 → 「GSS」シートが作成	作成された GSS は、次回ボタンを押したときに上書きされてしまうため、保存しておきたい場合には、シートを移動またはコピーして別ファイルとして保存してください。